

第 41 回環境審議会 議事要旨

日 時：令和 4 年 3 月 23 日（水）10 時 00 分～11 時 35 分

場 所：環境局 第 1・2 会議室（一部委員は WEB にて参加）

議 題：（１）「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」
について（素案）
（２）「大阪市環境基本計画」の進捗状況について
（３）その他

出席者：（委員）下田会長、今西会長代行、合田委員、阪委員、新玉委員、惣田委員、曾谷委員、田中委員、西尾委員、松井委員、松本委員、雪本委員、吉積委員、和田委員

（事務局等）青野環境局長、堀井環境局理事兼エネルギー政策室長、井原環境施策部長、三原環境施策課長、吉村企画課長 他

配付資料：次第

配席図

大阪市環境審議会委員名簿

資料 1 「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」
について（素案）

資料 2 大阪市環境白書（令和 3（2021）年度版）の概要

参考資料 大阪市環境審議会規則

参考資料 第 40 回 大阪市環境審議会議事要旨

参考資料 大阪市環境白書（令和 3（2021）年度版）

【議事要旨】

- ・資料 1 により、「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」（素案）について事務局が説明を行い、意見をいただいた。
- ・資料 2 により、「大阪市環境基本計画」の進捗状況について事務局が説明を行い、意見をいただいた。

【委員意見】

「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕（改定計画）」について（素案）

○カーボン削減の中で、どの施策をすると効率的だとか、ここは確実に進めないと危ないみたいなのところがある資料があると良い。

○エコロジカル・フットプリントを活用する際に、具体的に消費者は何から始めればいいのか、これを見た消費者がどういうふうに行動を変えていけばいいのかということ

を提示していくことが重要なのではないか。

- 温室効果ガスの削減に向けた取組みを進めていくための財源を、大阪市はどうしていくのか。国等の補助金を優先的に活用するとか色んな財源をどこから持ってきて、特に温室効果ガスの削減に繋がるような施策につなげていくのかというようなところも、説明責任として重要と思う。
- 実際の改定計画策定にあたっては、各部門の施策ごとの削減可能量を記載したほうが、より細かく、こういう部門でこれだけ削減していくんだというのがわかるので良い。
- 8 ページの図の④吸収源対策等の域外貢献によるオフセットというのが、①②③の達成度に応じた調整域のようにも思える。
- エコロジカル・フットプリントは非常に面白い内容だと思うので、施策とめざすべき目標として使えると良い。
- ゼロカーボンに向けて、産業構造とか社会経済の変革というものが求められてきている中で、取組みが強化されていく結果として成長に繋がるという、もう少しポジティブなトーンを全体的に含めた方が良い。
- エコロジカル・フットプリントを市民レベルで理解してもらうためには、この成り立ちから説明する必要がある。
- エコロジカル・フットプリントを1つの柱として出していくのであれば、例えば、環境活動団体を集めてエコロジカル・フットプリントについての説明を行うような場があると良い。
- 参考資料の 22・23 ページの大阪市のエコロジカル・フットプリントの分析も、計画の中に記載すれば、大阪市の姿がよくわかるので良い。
- 14 ページの生物多様性分野における気候変動への適応の部分で、グリーンカーボンの話もきっちり書いてほしい。
- 12 ページの国産木材の利用促進のところで、大阪市なのでもっとローカルに、近隣他県の木材を使うとか、もっとローカルな中で資源を有効活用していくということが大切なのではないか。輸送のところでかなりCO₂が発生するので、できるだけ輸送距離を少なくするという視点が大切である。
- 13 ページの地域循環共生圏のところをもっとしっかり書いていただきたい。地域循環共生圏の話は自然資源の利用、農産物とか林産物の利用も入ってくる。輸送のところで距離を減らすことが重要なので、このあたりも充実すると良い。
- 計画策定の段階で若者の意見を取り入れ、自分たちの計画であるという認識を持ってもらうような工夫は必要と思う。
- 大阪市のエネルギーは、域外のエネルギー生産なしには成り立たないので、グリーン化についてしっかり書いてほしい。
- 大阪市内でのグリーン電力の普及ということに対して貢献していくという姿勢を少し強調してほしい。

- 施策 1 つ 1 つはすごく面白い取組みだと思うが、数が多くて全体的に掴みにくい。大阪市の 2030 年とか 2050 年が明るい未来であるっていうことがわかるような組み立てにしてほしい。
- 明るい未来を数値根拠で出していくのが、大阪に求められるものだと思う。最新の知見をしっかりと見ながら、例えば民生・家庭の衣食住システムのライフスタイルの転換のところのグッドプラクティスを発信できると良い。
- 来年度以降、L B S A P（生物多様性地域戦略）の書き換えもあるため、その担当と連携し、共同施策を書き込めると良い。

「大阪市環境基本計画」の進捗状況について

- 小学生・中学生の全てに行き渡るところをめざして、色んな市民団体や学校と連携を図って、取り組んでいけるようなプロセスを検討してもらいたい。
- 生物多様性条約第 15 回締約国会議が来月中国で開催され、30by30（サーティ・バイ・サーティ）という数値目標が出てくると思われる。生物多様性の保全の施策とも重ねながら、炭素だけでなく 30by30 も含めた地域循環共生圏ということを考えていかなければならない。